

みなとMIYOMACHIケンチクさんぽ vol.29

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会 地域まちづくり委員会

「ケンチクさんぽ」の楽しみ

先日、9月30日をもって元町駅地下の「有楽名店街」が多くのの人に惜しまれつつ、76年の歴史に幕を下ろしました。このニュースに接し、元町駅に地下街なんてあった?と思われた方も少なからずいたのではないのでしょうか。かくいう私も、2001年から当地で設計事務所を営んでいるにも拘らず、この地下街を発見したのは2015年、実に14年もその存在に気付かずに元町駅を利用していました。発見した時の衝撃、愉悦はすさまじく、以来多くの人とこの地を訪れ、その昭和感あふれる存在を、そのレトロな魅力を語り合いました。



ケンチクさんぽの楽しさは、有名建築や歴史的建造物を見るだけでなく、普通の街角にある、ちょっと変わったもの、不思議なものを発見するところにあたりもします。

1970年代頃からの建築史家、建築家の藤森照信さんや博物研究家の荒俣宏さんらの建築探偵、路上博物、観察の活動は多くの書籍になり、街や建築の楽しさを私たちに教えてくれています。

今回は、元町界隈のちょっと面白い建築や空間をお伝えしたいと思います。このタウン誌の読者の方には、これらの建物の関係者もおられるかもしれませんが、街並み好きの戯言と笑っていただければ幸いです。

細いビル

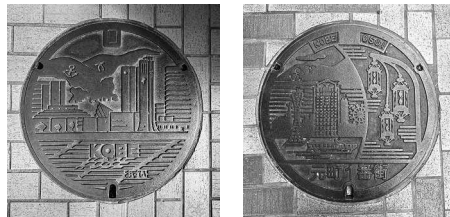


このビル、とても細いです。この手のビルは建築探偵モノではよくできまますが、なかなかこのレベルのものは珍しいと思います。どうやって使っているのか、どうやって上階に上がるのか、2階、3階の外壁に面した扉はなんなのか?興味はつきません。

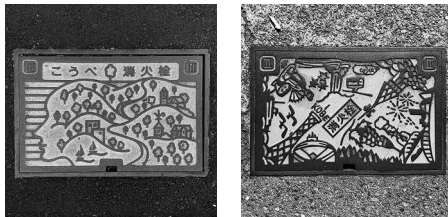
隣の建物が建て替わって見えにくくなったのですが、以前は見えていた横の壁面が選挙の時のポスターを貼る板でできていたのも萌えるポイントです。

素敵な消火栓蓋

マンホールの蓋は路上観察の鉄板ネタです。神戸にも素敵な蓋がいろいろありますが、他都市で見かけるカラー塗装の蓋は少ない印象です。



むしろ、みなと元町界隈を歩いてみると、黄色く塗られた消火栓の蓋の方が魅力的です。鉄色と黄色のコントラストも美しく、神戸の名所を表したデザインも秀逸です。



そして南京町にある排水溝の蓋は、写真では分かりにくいですが、少し中華風デザインで素敵です。



どこに車が? 立体駐車場

この立体駐車場、車を入れると上方に収納されていくタイプなのですが、見上げると上階にはお店の窓が…。以前は麻雀店だったと思いますが。

いったい車はどこにってしまうのか???マジックのような駐車場です。



マジックのタネはわかってしまうと楽しくないので、あえて答えを探さず、この道を通るたびに、いろいろ想像しながら眺めるのが楽しいのです。

レトロなストリートファニチャー

みなと元町界隈の街灯は、文明開化のモダンな雰囲気を表すためなのか、ガス灯風の街灯が多くみられます。バナーを取り付ける金物がついているタイプのももあり、街の風景を素敵に演出しています。

そして南京町の街灯はやっぱり中華風。楽しすぎます。。



以前のコラムにも書きましたが、もやい杭風の車止め。可愛すぎます。。



神戸の街並みは、文明開化期の明治、明るく楽しい大正、生氣溢れる昭和期の様々な街並み、建築、モノが混在して残っており、探検しがいがあります。

特にみなと元町の辺りは、王道の老舗が並ぶ商店街、かつての豪壮なモダン建築が残る栄町通、海岸通、裏道が楽しい乙仲通、個性溢れる南京町、さらにその周辺部にハイセンスな旧居留地、今後が楽しみなモトコー、高架下商店街、メリケンパークやハーバーランド、開発の続く港湾部、見どころ、歩きどころ満載です。

開発、再開発のはざままで、ちょっと取り残されたところに、街歩きの楽しみがあったりします。神戸の街の発展を願いつつ、あまり綺麗になりすぎないようにと、ヘンな望みをもちながら今回はこれで終わりたいと思います。



山岡 哲哉 (やまおか てつや)

株式会社山岡哲哉建築設計事務所 代表
2001-乙仲通の栄町ビルディングにて
建築設計活動
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会
地域まちづくり委員長